



故 深 田 尚 彦 先 生

深田尚彦先生（2017年4月17日永眠，93歳）

▷略 歴◁

1923年6月4日	出生
1943年9月	大阪第一師範学校卒業
1947年3月	大阪専門学校数学科卒業
1950年3月	同志社大学文学部文化学科心理学専攻卒業
1961年4月～1964年3月	同志社女子大学専任講師
1964年4月～1970年3月	同志社女子大学助教授
1970年4月～1989年3月	同志社女子大学教授
1972年4月～1974年3月	同志社女子大学一般教育主任
1977年4月～1979年3月	同志社女子大学図書館長
1989年4月～1995年3月	同志社女子大学嘱託講師
1989年4月	同志社女子大学名誉教授

▷学位◁

文学博士（同志社大学）

▷主な担当科目◁

心理学，社会心理学，発達心理学，卒業論文，児童心理学演習，児童発達心理学

▷所属学会◁

日本心理学会，美学会，関西心理学会，British Society of Aesthetics（UK），American Psychological Assoc.（USA）
（但し Foreign Affiliate），日本臨床心理学会

深田尚彦先生を偲んで

本学名誉教授で児童心理学がご専門の深田尚彦先生が2017年4月17日に永眠されました。享年93歳でした。学生時代に教わった恩師がまた一人おられなくなり寂しい限りです。

深田先生との最初の出会いは、私がまだ本学の学生で、一般教育（現共通学芸科目）の「心理学」を受講した時でした。当時あった梨の木学舎の大教室で、軽妙な語り口で滔々と講義をされていたお姿を覚えています。にこやかに学生に語りかけるように話される先生で、一般教育のいろいろな科目を履修した中でも、印象に残る授業の一つでした。

その次にお会いしたのは家政学部の教員としてでした。学部名称が生活科学部に変更されたのは1995年で、それまでは家政学部という名称でした。私は1987年入社で、その2年前に、それまで家政学科（現人間生活学科）におられた児童心理学の渡邊英一先生の定年退職のあとに深田先生が一般教育センターから異動されてこられていたのです。それは心理学の中でも深田先生のご専門が、子どもが描く絵からその子の心理を読み解く手法を用いられたものであり、まさに児童心理学そのものだったからでした。その頃（今はどうなのか知りませんが）、新任教員はできるだけサマーキャンプに参加するように言われて新任だった私も参加してみると、深田先生と繊維化学の瀬古一光先生が仲良く参加されていました。お二人は同い年で意気投合されたらしく、定年まで二人一緒に参加するつもりだと楽しそうに話しておられました。この世界でやっていけるのか不安でいっぱいだった私に、アメリカでもどこでもその道の大家に手紙を送って相談すべきだと、ご自身の経験をもとにアドバイスしてくださったことを覚えています。

深田先生は1989年に本学ご定年のあと大阪芸術大学に移られ、1995年から2006年まで学長も務められました。本学を離れられても時々教職員の集まりに来られ、お話をすることがありました。先生は英単語の語源などにもお詳しく、「わからないことがあればすぐに調べられるよういつも辞書を机に置いている、辞書は本当に面白い書物だよ」とよく話しておられました。

晩年先生は「残照抄」と題したブログを読んでくれと機会あるごとにおっしゃっておられました。このブログは2010年3月5日から始まっていて、その「はじまり」に、『一日の最後の光が地球の向こうから洩れて来る様に、語り残した事項を諸君（教え子たち）に語りたい』と記しておられます。長い人生で出会われた多くの良書、詩集についてや、文字の成り立ち、日常のふとした事柄など、様々なことを題材に思索し、先生独特の文章で語ってこられたものを今も見ることができます。ブログの最後の日付は2017年3月26日で、3つの文章がアップされていることから、最後まで頭脳明晰でおられたことがわかります。この文章の中に次の言葉を見つけました。

『今君が何をするかは長い君の人生での思考法による。求めずして得られる事無きは当然、人は最後まで全力を尽くして努力をすべき！ 君にはその力がある！ 励め！』(No.381)

学究肌で、文字通り生涯勉強を貫かれた深田先生が、何度も年賀状に書いて送ってくださったのは「同志社女子大学の学生はよい！」という言葉でした。

先生のご生前のお働きと卒業生に注ぎ続けてくださった深い愛情に感謝申し上げますとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

生活科学部教員 川崎 祐子